

## 自己資本の充実の状況

### ■自己資本比率(単体)

2021年度上期については、前年度に続き「新型コロナウイルス」の影響を受けておられる事業所や個人の皆様への支援に最優先で取り組む一方で、多くの皆様から多額の預金をお預かりしたことから、リスク管理に留意しつつ信金中金預け金などの運用に努めました。その結果、リスク・アセットの増加率が自己資本の増加率を上回り、9月期の自己資本比率は15.45%(期初比▲0.59ポイント)と低下しましたが、依然として国内基準4%を大幅に上回る水準を維持し、経営の健全性・安全性を十分に保っています。

当金庫は、引き続き、適切なリスク管理の下、地元皆様への融資と適切な資金運用に取り組み、健全性の確保と収益性の向上に努めてまいります。

#### 【当金庫の2021年9月期の自己資本比率(単体)】

$$\text{単体自己資本比率} = \frac{\text{自己資本の額(コア資本に係る基礎項目の額49,036百万円-コア資本に係る調整項目の額242百万円)}}{\text{信用リスク・アセットの額の合計額299,867百万円+オペレーショナル・リスク相当額の合計額÷8% 15,927百万円}} \times 100 = 15.45\%$$

### ■自己資本の構成に関する事項

(単位:百万円)

項 目	2021年3月	2021年9月
<b>コア資本に係る基礎項目(1)</b>		
普通出資又は非累積的永久優先出資に係る会員勘定の額	48,222	48,968
うち、出資金及び資本剰余金の額	1,051	1,053
うち、利益剰余金の額	47,233	47,915
うち、外部流出予定額(△)	63	-
コア資本に係る基礎項目の額に算入される引当金の合計額	80	67
うち、一般貸倒引当金コア資本算入額	80	67
コア資本に係る基礎項目の額(イ)	48,302	49,036
<b>コア資本に係る調整項目(2)</b>		
無形固定資産(モーゲージ・サービシング・ライセンスに係るものを除く。)の額の合計額	108	123
うち、のれん及びモーゲージ・サービシング・ライセンスに係るもの以外の額	108	123
前払年金費用の額	69	119
コア資本に係る調整項目の額(ロ)	178	242
<b>自己資本</b>		
自己資本の額((イ)-(ロ))/(ハ)	48,124	48,793
<b>リスク・アセット等(3)</b>		
信用リスク・アセットの額の合計額	283,933	299,867
うち、経過措置によりリスク・アセットの額に算入される額の合計額	△2,477	△2,477
うち、他の金融機関等向けエクスポージャー	△2,477	△2,477
うち、上記以外に該当するものの額	-	-
オペレーショナル・リスク相当額の合計額を8パーセントで除して得た額	15,927	15,927
信用リスク・アセット調整額	-	-
オペレーショナル・リスク相当額調整額	-	-
リスク・アセット等の額の合計額(ニ)	299,860	315,794
<b>自己資本比率</b>		
自己資本比率((ハ)/(ニ))	16.04%	15.45%

(注)自己資本比率の算出方法を定めた「信用金庫法第89条第1項において準用する銀行法第14条の2の規定に基づき、信用金庫及び信用金庫連合会がその保有する資産等に照らし自己資本の充実の状況が適当であるかどうかを判断するための基準(平成18年金融庁告示第21号)」に基づき算出しております。なお、当金庫は国内基準を採用しております。

## 金融再生法開示債権の状況

(単位:百万円、%)

区 分	開示残高 (a)	保全額 (b)	担保・保証等 による回収 見込額(c)	貸倒引当金 (d)	保全率 (b)/(a)	引当率 (d)/(a-c)	
金融再生法上の 不良債権	2021年3月	5,189	4,696	2,930	1,765	90.49	78.15
	2021年9月	5,105	4,708	2,931	1,777	92.23	81.75
破産更生債権及び これらに準ずる債権	2021年3月	811	811	486	325	100.00	100.00
	2021年9月	957	957	599	358	100.00	100.00
危険債権	2021年3月	4,072	3,753	2,317	1,435	92.17	81.82
	2021年9月	3,911	3,654	2,236	1,418	93.42	84.63
要管理債権	2021年3月	306	131	126	4	42.86	2.72
	2021年9月	236	97	96	0	41.11	0.37
正常債権	2021年3月	314,054					
	2021年9月	310,736					
合 計	2021年3月	319,244					
	2021年9月	315,842					

・上記開示債権について、担保・保証等による回収見込額には、決済確実な割引手形等を含めています。

・金融再生法上の不良債権比率=  

$$\frac{\text{金融再生法上の不良債権 5,105百万円}}{\text{合計(総与信)315,842百万円}} \times 100 = 1.62\%$$

※不良債権比率は単位未満を四捨五入して表示しています。

(注)

- 1.「破産更生債権及びこれらに準ずる債権」とは、破産手続開始、更生手続開始、再生手続開始の申立て等の事由により経営破綻に陥っている債務者に対する債権及びこれらに準ずる債権です。
- 2.「危険債権」とは、債務者が経営破綻の状態には至っていないが、財政状態及び経営成績が悪化し、契約に従った債権の元本の回収及び利息の受取りができない可能性の高い債権です。
- 3.「要管理債権」とは、「3か月以上延滞債権」及び「貸出条件緩和債権」に該当する貸出金をいいます。
- 4.「正常債権」とは、債務者の財政状態及び経営成績に特に問題がない債権であり、「破産更生債権及びこれらに準ずる債権」、「危険債権」、「要管理債権」以外の債権をいいます。
- 5.「金融再生法上の不良債権」における「貸倒引当金」には、正常債権に対する一般貸倒引当金を除いて計上しております。

※各表中の記載計数で「-」は、該当計数がないことを表示しています。  
 ※各表中の記載計数で「0」は、該当計数があるものの、単位未満であることを表示しています。  
 ※各表中の記載計数は、単位未満を切り捨てて表示しています。

## ■自己資本の充実度に関する事項(単体)

(単位:百万円)

	2021年3月		2021年9月	
	リスク・アセット	所要自己資本額	リスク・アセット	所要自己資本額
<b>イ. 信用リスク・アセット、所要自己資本の額の合計</b>	<b>283,933</b>	<b>11,357</b>	<b>299,867</b>	<b>11,994</b>
①標準的手法が適用されるポートフォリオごとのエクスポージャー	257,341	10,293	270,602	10,824
現金	-	-	-	-
ソブリン向け	1,401	56	1,325	53
金融機関及び第一種金融商品取引業者向け	45,072	1,802	61,021	2,440
法人等向け	61,476	2,459	58,482	2,339
中小企業等向け及び個人向け	68,471	2,738	68,497	2,739
抵当権付住宅ローン	11,007	440	10,625	425
不動産取得等事業向け	18,415	736	18,337	733
3か月以上延滞等	607	24	604	24
取立未済手形	62	2	64	2
信用保証協会等による保証付	4,250	170	4,142	165
株式会社地域経済活性化支援機構等による保証付	-	-	-	-
出資等	7,959	318	8,795	351
出資等のエクスポージャー	7,959	318	8,795	351
重要な出資のエクスポージャー	-	-	-	-
上記以外	38,617	1,544	38,705	1,548
他の金融機関等の対象資本等調達手段のうち対象普通出資等及びその他外部TLAC関連調達手段に該当するもの以外のものに係るエクスポージャー	9,647	385	9,647	385
信用金庫連合会の対象普通出資等であってコア資本に係る調整項目の額に算入されなかった部分に係るエクスポージャー	3,438	137	3,438	137
特定項目のうち調整項目に算入されない部分に係るエクスポージャー	2,672	106	2,635	105
総株主等の議決権の百分の十を超える議決権を保有している他の金融機関等に係るその他外部TLAC関連調達手段に関するエクスポージャー	-	-	-	-
総株主等の議決権の百分の十を超える議決権を保有していない他の金融機関等に係るその他外部TLAC関連調達手段のうち、その他外部TLAC関連調達手段に係る5%基準額を上回る部分に係るエクスポージャー	-	-	-	-
上記以外のエクスポージャー	22,859	914	22,984	919
②証券化エクスポージャー	18	0	11	0
証券化	-	-	-	-
STC要件適用分	-	-	-	-
非STC要件適用分	18	0	11	0
再証券化	-	-	-	-
③リスク・ウェイトのみなし計算が適用されるエクスポージャー	29,052	1,162	31,730	1,269
ルック・スルー方式	29,052	1,162	31,730	1,269
マンドート方式	-	-	-	-
蓋然性方式(250%)	-	-	-	-
蓋然性方式(400%)	-	-	-	-
フォールバック方式(1250%)	-	-	-	-
④経過措置によりリスク・アセットの額に算入されるものの額	-	-	-	-
⑤他の金融機関等の対象資本等調達手段に係るエクスポージャーに係る経過措置によりリスク・アセットの額に算入されなかったものの額	△ 2,477	△ 99	△ 2,477	△ 99
⑥CVAリスク相当額を8%で除して得た額	-	-	-	-
⑦中央清算機関関連エクスポージャー	0	0	0	0
<b>ロ. オペレーショナル・リスク相当額の合計額を8%で除して得た額</b>	<b>15,927</b>	<b>637</b>	<b>15,927</b>	<b>637</b>
<b>ハ. 単体総所要自己資本額(イ+ロ)</b>	<b>299,860</b>	<b>11,994</b>	<b>315,794</b>	<b>12,631</b>

- (注) 1. 所要自己資本の額=リスク・アセット×4% (自己資本比率規制における国内基準)  
 2. 「エクスポージャー」とは、資産(派生商品取引によるものを除く)並びにオフ・バランス取引及び派生商品取引の与信相当額等のことです。  
 3. 「ソブリン」とは、中央政府、中央銀行、地方公共団体、我が国の政府関係機関、土地開発公社、地方住宅供給公社、地方道路公社、外国の中央政府以外の公共部門(当該国内においてソブリン扱いになっているもの)、国際開発銀行、国際決済銀行、国際通貨基金、欧州中央銀行、欧州共同体のことです。  
 4. 「抵当権付住宅ローン」とは、住宅ローンの中で代表的なものとして、抵当権が第1順位かつ担保評価額が十分満たされているものを指します。  
 5. 「3か月以上延滞等」とは、元本又は利息の支払が約定支払日の翌日から3か月以上延滞し

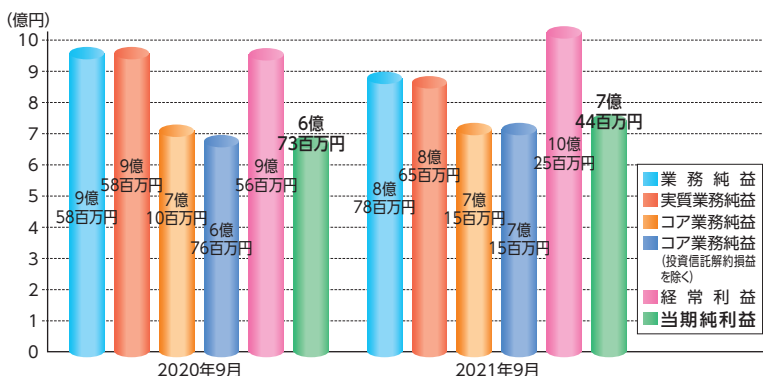
ている債務者に係るエクスポージャー及び「ソブリン向け」、「金融機関及び第一種金融商品取引業者向け」、「法人等向け」(「国際決済銀行等向け」を除く)においてリスク・ウェイトが150%になったエクスポージャーのことです。  
 6. 「上記以外」は、ポートフォリオごとの区分に分類することが困難なもので、主なものは仮払金、前払費用、固定資産、繰延税金資産等です。  
 7. 当金庫は「基礎的手法」によりオペレーショナル・リスク相当額を算定しています。

(オペレーショナル・リスク相当額(基礎的手法)の算定方法)  $\frac{\text{粗利益(直近3年間のうち正の値の合計額)} \times 15\%}{\text{直近3年間のうち粗利益が正の値であった年数}}$

8. 単体総所要自己資本額=単体自己資本比率の分母の額×4%

## 損益の状況

新型コロナウイルスの厳しい影響を受けられた事業者や個人の皆様への支援に努め、本業支援を軸に“よろず相談所”としての取組みに注力しました。その結果、経費の削減を上回る貸出金利息収入および国債売却益の減少により業務純益は878百万円(前期比▲80百万円、▲8.42%減)となりました。経常利益は、前期を上回る株式売却益の計上により1,025百万円(前期比68百万円、7.12%増)となり、当期純利益は、744百万円(前期比70百万円、10.53%増)を計上することができました。



## 《たんよう》のカードなら《たんよう》のATMでのお引き出し手数料「無料」

《たんよう》のキャッシュカード・通帳をご利用の場合  
**《たんよう》ATMなら 土・日・祝・夜間も**  
**お引き出し 手数料 0円**

(《たんよう》キャラクター 森山 愛(もりやま あい))

(注) 他金庫幹事の共同設置出張所である、コープ田寺・イオンモール姫路大津・姫路循環器病センター・姫路赤十字病院の各ATMはご利用日や時間帯により手数料が必要になる場合があります。

## 《たんよう》営業店間のATM等での振込手数料「無料」

《たんよう》ATM・インターネットバンキング  
 ファームバンキング等 なら  
**本支店間振込 手数料 0円**

(《たんよう》キャラクター 加古 翔(かこ しょう))

(注) 他金融機関カードによるATM振込については、別途手数料が必要になる場合があります。  
 法人インターネットバンキング、FB、HB、ファクシミリ振込サービスの基本料金および替自動振込の手数料は必要です。